

平成24年度土砂災害防止に関する絵画・作文  
作文(中学生)の部 国土交通事務次官賞

宮崎県 三股町立三股中学校 1年 土持 恒貴

「土砂災害防止に関する作文」

今年の夏は、日本全国で異常気象が続き、特に九州地方では記録的大雨で各地で大変なことになりました。ニュースで見た映像は、普段はおだやかな川が水であふれかえり、いろいろな物を巻き込み、すごい勢いで流れ、またたく間に堤防をのりこえ、人々の家までものみこんでいく様子や、山からの土砂で家が跡形もなくおし流されてしまった様子でした。どの映像を見ても、つい何時間前まで、普通に幸せな生活をしていたのがうそのように、景色を、人々の生活を、あつというまに変えていました。自然災害の前では、人間の力は無力だとよく言われますが、まさにその通りだと改めて思い知らされました。

テレビニュースで取り上げられるような災害でなくても、例えば自分自身でも激しい雨が降り続いただけでも、通学路に水があふれ、歩道と車道の区別がつかなくなり、危ないと思うことがあります。被害の大小に関係なく、自然が起こす災害は人々の生活に支障をきたすと思いました。

僕が通う三股中学校では、昭和四十四年集中豪雨によりがけくずれが起こり、下校中四名の生徒の尊い命が失われました。

三股中では生徒の死を悼み、毎年追悼集会が開かれます。今年の追悼集会では、東日本大震災の復興に際し、東北で教育活動をされた小学校の先生のお話がありました。この話を聞いて、自然災害の恐ろしさや命の大切さを改めて感じました。何年何十年時が過ぎても、身内を亡くした家族や友人の悲しみは、消えることはないんだなと思いました。だからこそ、こうやって毎年追悼集会を開き、災害の恐ろしさや、自分の身を守るために何ができるか考えさせる機会を与えてもらっているのだなと思いました。

そして、自分自身で災害に対してできることが何かあるのではないかと考えました。

例えば、大雨の時に通学路で危ないと感じている場所を、地図に印をつけます。これを学校全体で行えば、三股中全体の通学路の危険マップができると思います。それを基に改善改修してもらえるように、各方面に働きかけることができるのではないかと思います。そうして身の回りにある小さな危険を減らしていくことが、大きな危険を減らしていくことの第一歩ではないかと思いました。日常生活で危険だと思っていたても、なかなか声に出して言うことはありません。また、自然災害などは一時的で、過ぎ去ってしまえば忘れてしまいます。でもそこで、見過ごさないで声に出し、危険の芽をつむことがとても大切なことではないかと思いました。

そして、日頃から災害に備え、準備しておかなければいけないと思いました。まず、自分で心がけることは、学校の登下校、部活動をする体育館の行き帰りの道を決め、家族に教えていつも決まった道を歩くようにしようと思いました。もし何かあったときに決まった道を歩いていると、家族の人が安心し、家族にもどこにいるかということがわかりやすいです。

次に、何かあったときに避難する場所を何ヶ所か決め、何かあったときはそこに行くようにしておきます。そして、どこに避難するかを家族もよく理解しておかないといけないと思いました。そして災害に備えて、水や食料品、懐中電灯などそろえておかないといけない用品がたくさんあります。そしてこれらを定期的に点検し、いつでも使えるようにしておかないといけないと思いました。

少し考えただけでもいろいろなことが思いつきます。そして思いつくだけではなく、これらを行動に移さなければ何にも意味がありません。思いついたらすぐ行動するという心がけが災害から身を守る大切なことだと思います。

そして、近所の人や地域の人々とのつながりも大切だと思いました。東日本大震災の時も、地域つながりや人々のつながりが多い命を救ったそうです。何か困ったことがあるときに支え合う気持ちを持たないといけないと思いました。そのために僕ができることは、近所の人や地域の人との交流を深めるためにまずは、元気なあいさつをして、顔をおぼえてもらおうと思いました。

災害に備えてできることは僕にもたくさんありました。小さなこともみんなで行えば、大きな力になると思います。災害で困る人がいない安心して生活できる社会を作るためにがんばっていきましょうと思いました。